

説苑



元地方幹事齋藤英夫君の永眠

田 中 好

三重縣土木課長で本會の地方幹事として活動された、齋藤英夫君が這般退官されたことは既に報道したが、氏は退官後尾鷲の海岸にあつて療養に力められたにも拘はらず、其の効なく去る二月十七日長逝された。

氏は明治二十二年七月山形縣東田川那狩川村に生れ、大正三年東京帝國大學土木工學科を卒業し、民間に於ける土木事業に従事したが、同八年松山市技師と爲つて同市下水道築造課長の職を奉じた。是が氏の公職に於ける初歩であつた。無事に下水道の築造を完成して同九年愛媛縣工師と

爲つた。同十年土木技師兼道路技師に昇格し、同十二年京都府に轉じ同十四年山梨縣土木課長と爲つて、彼は土木課長としての手腕を振ふ地位に附いた。昭和四年三重縣土木課長に轉じ遂に病を得て今回の不幸に遭遇したのである。

彼が所謂ひら技師として愛媛縣や京都府に勤めた時代には餘り書き立てるだけの功績を残してゐないやうであるが、彼の手腕が認められたのは何と言つても山梨縣時代であつた。山梨は人も知るやうに富士山の陰に位し四面險阻の地であつて、四面の山嶽が禍して交通の不便を招いてゐ

る。帝都の近くに位しながら其の惠澤を受け得ないで山梨縣の産業を開發するには交通の便を圖るのが肝要事であつたが、氏が任官した當時は未だ夫れが計畫されてゐなかつた。彼は之に着眼して東京甲府間國道の改良を企て、一方甲府から富士川に沿ふて東海道大宮に出る府縣道の改良を策し、縣民の歓迎を受けたのであつたが、未だ其の事業に

着手しないで三重縣へ轉じた。併し夫等

二つの大道路工事が失業救濟事業として着々進工しつゝあるのは彼に負ふ所頗る多い、水力發電事業に就ても全國有數の地であつて常に事業者と紛争を惹起するのであつたが、之も彼が圓滿に解決して

治水と利水の行政に盡したことも尠くない。三重へ轉じてからは行き悩んでゐた例の揖斐長良川の架橋に着手するやら、三重の西部と和歌山の東部を開發する木本と大和五條間の道路の改良を策するやら地方開發の爲に畫策した。併し時の内閣は財政緊縮政策を墨守して一切の新規土木事業

の執行を、許さないときであつたが爲に、彼が折角計畫した事業も執行するに由なかつたが、夫れでも揖斐長良川橋の下部工だけを完成せしめた。今や積極政策を探る内閣が出現して産業五ヶ年計畫を實行せむとするとき、彼が夫れに相應しい計畫を抱いて逝つたことは惜むべきである。

彼の兄弟和睦しいことは有名であつた、受くべき限りある官祿に依つて兄弟の子女を自ら養育し、



故 齋 藤 英 夫 君

我が兒にも及ばない世話をしてゐた、従つて彼は是等の爲に赤貧に甘じ決してブル的生活を所望しない至つて地味な生活に満足してゐた、固より彼は酒家であつた。會て彼が山梨縣土木課長と爲つたとき、其の前

任者渡邊英保も彼と同じやうに京都府から榮轉して來て酒の爲に遂に斃れたのであつたから、友人は常に禁酒を奨めたのであつたが、好きなものは強て罷める必要は無いと言つて夫れだけは聞かなかつた。今回の病も之を助勢したのは矢張り酒であつたであらう、彼は酒の爲に時に人から誤

解を受けたこともあつたが、彼は常に夫等の非難を自ら釋明しやうとはしない、言はず言へ。この態度を持したのは賣名の爲に走る連中と頗る性格を異にしてゐた。

我が土木事業界益多事ならむとするとき、計畫能力を持つる彼が吾等の期待を捨て幼き子女を遺して長逝したること

は、我れ人ともに悲む所である。併し彼の計畫は産業土木事業として其の一半は實現さるゝことであらう。遺兒の養育も亦情ある廣瀨知事やら親友に依つて爲し遂げ得るであらう。以て冥するに足る。

大和川畔の地氾り

大和川と言つたつて即座にあの川かと首肯する人はないやうな川だが、奈良平野に於ける總ての水量を大阪灣に放流する役目を持つ大和川、其の大和川に向つて大阪府中河内郡堅上村大字峠の部落が徐々に滑落し、大和川の河床が日一日と隆起し、其の對岸に在る府縣道大阪街道は三米ばかり隆起しだした。ところが大和川の右岸は河岸急峻であつて高さ四五十米もあるから、此河岸が三十間も移動することがあつたならば大和川を閉塞してしまつて、奈良平野東西三里南北六里の地は貯水池と爲る譯で、自然の惡戯も少々程度超過の感がある。

學者の言ふ所を聞けば、有史以前に於て奈良盆地は、水を湛へた湖水であつたが、自然に大和川と言はるゝ排水路が出来て耕地と爲つたと言ふことだが、有史以前の原狀に回復せしめむとする自然の惡戯に對し地方人士が騒ぎ出したのも無理はない。此自然に對抗して吾等は人智の總てを以て對策を講ぜねばならぬ。

ところが大阪奈良の府縣界は自然に構成された大和川の中心にあるので、此地氾問題は兩府縣の問題と爲つてゐる其の解決は愈々複雑化するのである。マー夫れは何とか解決出來得るものとしても、如何なる方法を以て之を防止し、又は防止出來得ないとすれば之に代るべき對策を探らねばならぬ。内務當局は地方關係者を召喚して連日連夜研究を重ねてゐるが、技術的安全な方法を探れば財政的に困り、財政の許すべき方法は技術的安全を期し得ないと言はれてゐる。奈良平野を湖水たらしむるの決心ならば何事も言はない。併し夫れを排し現狀を維持するの必要を認むる以上は、假令財政上の困難あるにしても姑息な方法を捨て、永久策を講ずるのが肝要である。而して如何なる方法に依るべきやは一に土木技術の權威を以てする内務省土木局技術官の判斷に俟たねばならぬ。近頃は餘り技術の權威の表はれと言つて讚へるだけの問題は無かつたが、今回の此地氾こそは技術官の智能を試験すべき好簡題目であつて吾人は當局の採る方法を監視するであらう。(丹波浪人)